

# JLEM News Letter Vol.56



## 第62回日本語教育方法研究会開催

発表 70 件 参加者 182 名  
第 63 回はオンライン開催にて

2024年3月3日(日)、第62回日本語教育方法研究会が愛知大学で開催されました。参加者は182名(会員149名、非会員33名)で、一日を通して活発な意見交換が行われました。

3月1日(金)には、運営委員会が開かれました。議事については、このレターの記事をご覧ください。

次回の第63回研究会は2024年9月7日(土)にオンラインで開催されます。皆様、奮ってご参加ください。

開催を終えて  
高村 めぐみ  
(愛知大学)

第62回研究会は、2024年3月3日(日)に愛知大学で開催されました。いろいろ至らない点も多くあったかとは思いますが、運営委員の皆様をはじめとする多くの方々のご協力のおかげで、無事に終えることができました。当日は、70件と大変多くのポスター発表があり、計182名の方にご参加いただきました。今回、初の試みとして、各自で昼食を持ち込み、好きなトピックの島で意見交換をする「昼食交流会」を行いました。自由度の高いテーマを設定した

ことに好意的な意見があり、今後も、参加者の方が程度自由に話し合える場を提供できればと思いました。また、当日は本学学部生がアルバイトとして補助作業を行いました。参加者の方々の熱心な様子を見て、大いに刺激を受けておりました。このような機会を与えてくださり、改めてお礼を申し上げます。今後も日本語教育に携わる方にとって親しみやすく、参加しやすい会が続いていくことをお祈り申し上げます。

講評  
松崎 寛  
(会長)

以下、第62回研究会の講評のときに述べたことですが、記録の意味で掲載します。これは会長の講評というより、研究発表に関して、複数名の運営委員や参加者から出ている意見です。次回以後、ご留意願います。(1)会誌原稿:発表以前の段階のお願いですが、書式や先行研究の記述が不十分な原稿が多数あります。毎回、編集委員のみなさんが、執筆者と何度もやりとりをして質を高める努力をされています。「発表案内」を熟

読して細心の注意を払って入稿してください。

(2)発表の内容:JLEMは「査読なし」で多くの方に発表機会を提供することを目指していますが、実際には編集委員のみなさんが、会の趣旨に合わないものや内容が不十分なものに対して加筆修正を依頼しています。JLEMは、「日本語教育の現場に役立つ、日本語教育方法に関する実践的かつ科学的・実証的調査を推進し、この研究調査に関して情報の交換を行うことによって、日本語教育の質の向上を図ることを目的としています(サイト「JLEMの紹介」より)」。内容学や理論寄りの研究であったとしても、最終的にはその成果が教育現場へ還元されるような明確な目的をもって研究を行ってほしいと思います。また、加筆修正は求めないまでも、「考察」がなかったり、「結果」が不十分だったりする、「やってみました」「作ってみました」で終わっているものも散見されます。ポスターを前にした議論で聴衆が最も興味を持つのは、発表者の考察です。ここが欠けた、「研究」として不完全なものにならないようご留意ください。

(3)発表の方法:ポスター発表は口頭発表とは異なり「やりとり」が命です。しかし、概要説明が非常に長かったり、一人の質問に対する話が延々続いたため「質問したかったけ

ど他の発表に移動した」人がかなりあります。説明は簡潔に、より多くの人と議論ができるように、ご配慮をお願いします。また、これは聞く人へのお願いでもあります。質問が聞こえず、やり取りがよくわからないことも多々あるようです。例えば発表者が質問内容を繰り返す等、質疑を場全体で共有するご配慮もお願いできればと思います。

### 次回開催にあたって

内藤 真理子  
(事務局)

第63回研究会は、2024年9月7日(土)にZoomの会議システムを利用して遠隔で開催します。第63回研究会では、運営上の都合により発表件数の上限を80件とします。発表申込件数がそれを上回った場合には、発表申込をされた方を対象に抽選を行い、発表をしていただく方を決める予定です。抽選から漏れた方は、会誌原稿掲載をもって発表成立とします。詳細については、「発表申込みのご案内」をご覧ください。また、事前の動作確認の御依頼には対応いたしかねますので、各自で行ってください。

### 第17回JLEM優秀賞

JLEMの「優秀賞」は、①課題の設定やその検証の視点の独自性、②教育実践、研究成果の発展性、③ポスターの作り方(ポスターが見やすいか、内容理解を促進しているか)という3点を基準に審査され、優れた発表を行った会員に授与されるものです。また、優秀賞以外にも顕彰に

値する発表があった場合には「奨励賞」が授与されます。さらに、「ポスター賞」はポスターが優れている発表が選ばれます。

今回も規定通り、会長、事務局、3名の運営委員で構成されるJLEM賞選考委員会で審査を行いました。結果は、以下のようになりました。

「優秀賞」高橋亘(神田外語大学)・工藤嘉名子(東京外国語大学)「オンデマンド教材を併用したブレンド型初級文法授業」

優秀賞の高橋亘氏・工藤嘉名子氏の発表は、対面授業に非同期型のオンデマンド教材を併用したブレンド型初級文法授業について報告したものです。オンデマンド教材の導入により、従来の対面授業から、どのように授業設計が変化したかを、SAMRモデルという理論を援用し、予習・授業・復習・まとめクイズそれぞれについて分析しました。そして多くの履修生にとってオンデマンド版の教材は日本語学習に有用であったこと、またその学習はさほど負担感がないことが示された点が、高く評価されました。

また、ポスターは見やすいだけでなく、考察として訴えたい点をポスターの中心に据え、非常に分かりやすく作られており、ポスターに対する評価も非常に高かったです。

さらに、今後はアクセスログと成績の関係など、ブレンド型文法授業の効果に関する調査も是非伺いたいという声もあり、今後の発表も期待されます。

受賞のポスターは本会のホームページに掲載されていますので、ぜひ

ご覧ください。

(長谷川守寿)

### 運営委員会報告

運営委員会は、3月1日(金)にZoomを用いて開かれました。32名の運営委員のうち17名が参加し、15名から委任状が提出されました。今回の運営委員会で報告・審議されたことを、以下にご報告いたします。

- ①会員数：2024年2月29日現在、732名(国内700名、海外32名)。
- ②運営委員の異動：なし。
- ③会誌送付方法の変更：クロネコヤマトの発送システム変更に伴い今期はゆうメールで送付。今後はゆうメールもしくは第四種郵便利用申請の可能性を探りつつ、送付方法について検討する。
- ④今後の開催予定：第63回研究会(2024年9月7日)は、オンライン開催(Zoom)を予定。第64回研究会(2025年3月)は、桜美林大学町田キャンパスで対面開催を予定。対面/オンライン開催方法の時期・地域については、事後アンケートも参考にしつつ、継続審議。

(松崎寛)

### 事務局よりご連絡

#### ●発表者の会費支払期限

第63回研究会で発表するためには、発表者(複数の場合は全員)は応募時点で2024年度の会費(2024年4月からの新年度分)を支払っていただかなければなりません。期限は

2024年7月2日(火)です。その時点で入金の確認できない方については、発表申し込みを受け付けることはできませんので、早めに入金を済ませてください。昨年度の会費が未納の場合、今年度に会費を支払っても、昨年度分に充てられるため、今年度分は未納のままとなります。発表申し込みの前に、必ず発表者全員が各自の会員ページで会費支払いが済んでいることをご確認ください。

#### ●発表をお断りする場合

本研究会では、以下の場合発表をお断りする場合がありますので、ご承知おきください。

- ①本研究会、または他の学会・研究会で既に発表された内容のもの
- ②研究倫理上問題があると考えられるもの
- ③特定の個人や集団を攻撃する内容のもの
- ④特定の教材、商品、サービス等を宣伝するもの
- ⑤日本語教育との関連が見出せないもの

#### ●住所変更等

JLEMでは、会員管理システムに登録された会員住所に会誌を送付しています。現在、クロネコヤマトメール便の廃止に伴い、新たな送付方法を検討中ですが、住所変更の有無にかかわらず、以下を会員専用サイトにて改めて確認していただけますよう、お願い申し上げます。

- ・集合住宅にお住まいの場合：建物名まで入力されているか
- ・郵便受けの表札名とご登録の苗字が異なる場合：住所末尾に「〇〇方」と追記されているか

(内藤真理子)

## 会費納入について

会計年度は、4月から3月です。前号のニュースレターでもお願いしましたが、研究会のスムーズな運営のためにも、6月30日までにお支払いただきますようお願いいたします。

また、各研究会の際に会費納入が終了していない場合は、研究会までに会誌が送付されず、後日送付されることとなります。また、それにより、運営委員の手間が増えることとなります。それはともかく、研究会の際、会誌が手元にないと不便だと思しますので、余裕をもってお支払いをお願いいたします。発表申込の締切日を目安とお考えください。

#### ●振込先

##### ①郵便局の電信払込の場合

記号：10140

番号：69076511

加入者名：日本語教育方法研究会

振込者名：(氏名だけでかまいません)

##### ②銀行からの振込の場合

銀行名：ゆうちょ銀行

金融機関コード：9900

店番：018

預金種目：普通

店名：〇一八店(ゼロイチハチ店)

口座番号：6907651

加入者名：ニホンゴキョウイクホウ

ハウケンキョウカイ

振込者名：(氏名だけでかまいません)

#### ●所属先名で振り込む場合

所属先の前に必ずご登録の会員名をご記入ください。所属先が前だと会員名がカットされることがありま

す。

#### ●会員番号で振り込む場合

会員番号の前に必ずご登録の会員名をご記入ください。会員番号が前だと会員名がカットされることがあります。

#### ●ご登録の会員名と異なる名義で振り込む場合

必ず振り込みの度に、ホームページの「お問い合わせ」より、その旨ご連絡ください。

#### ●振り込む方の名義が外国語で表記される場合

ご登録の会員名が確認できないことがよくあります。特に、中国の方はピンインで表記されることが多いため、ご登録の会員名(JLEMのシステムでは漢字とカタカナのみ)を検索して確認するのに時間がかかっています。お手数ですが、振り込んだというご連絡をいただくと助かります。

(内藤真理子・高橋亜紀子)

## 運営委員会メンバー

会長：松崎寛（日本大学）

事務局：内藤真理子（電気通信大学），畠山理恵（文化学園大学）

会計：伊藤夏実（東京農工大学），島崎薫（東北大学），高橋亜紀子（宮城教育大学），平田秀（武蔵野大学）

編集（ニュースレター担当）：世良時子（上智大学）

編集（会誌担当）：内山喜代成（桜美林大学），榎原実香（東京工業大学），大津友美（東京外国語大学），尾沼玄也（拓殖大学），香月裕介（神戸学院大学），鴈野恵（筑紫女学園大学），工藤嘉名子（東京外国語大学），栗原通世（国士舘大学），小森万里（大阪大学），佐々木良造（静岡大学），鈴木綾乃（横浜市立大学），生天目知美（東京海洋大学），村上智子（山梨学院大学）

編集（J-STAGE 担当）：寺嶋弘道（立命館アジア太平洋大学）

情報管理：佐藤礼子（東京工業大学），篠崎大司（別府大学／株式会社篠研），橋本直幸（福岡女子大学）

企画・広報：河野俊之（横浜国立大学），高村めぐみ（愛知大学），俵山雄司（名古屋大学），中川健司（横浜国立大学），根津誠（国際交流基金），長谷川守寿（東京都立大学），平山允子（日本学生支援機構）

日本語教育方法研究会

問い合わせ先：[jlem-ml@jlem-sg.org](mailto:jlem-ml@jlem-sg.org)

（レター編集：世良時子）